

さくら介護グループ ベトナムへ拠点設置

富裕層向けに介護サービス展開

介護サービスをFC展開する、さくら介護グループ（中区大手町3-13-18、田本慎二社長）は、ベトナム・ホーチミン市で介護の就業支援事業を始める。4月に同市内のレストランカフェを買い取り、同建物の4階部分に事務所を整備。5月から現地の富裕層向け介護サービスに従事するスタッフの募集に入る。同社は2006年に米国ハワイ州ホノルル市へ現地法人を設立。既に介護サービスを開始しており、海外での事業展開はベトナムが2番目になる。

ホーチミン市のレストランは4階建てで、従業員30人を引き継ぐ。レストラン運営と並行して、ベトナム人マネージャーを中心に介護ビジネスの確立を目指す。日本の法整備を待つて将来は、日本式の介護を学んだベトナム人を日本へ送り出す構想だ。学生1000〜2000人を抱える現地の主要日本語学校3校と提携し、人材確保に備える。ハワイでは現在、現地日系人30〜50人が同社のサービスを利用しており、FC展開の準備に着手している。

同社は、FC加盟店が介護サービスに専念できるように、3年ごとに見直される介護保険制度で煩雑なレセプト処理業務などを代行。国内の直営エリア本部は10カ所、加盟店は針灸マッサージ事業者を中心に170カ所に上る。訪問介護と居宅介護支援、デイサービスのほか、介護サービスを提供するサービス付き高齢者向け住宅を三原市内で手掛ける。グル

ープ全体の年間売上げは30億円規模。